



札幌市

毎日、なにげなく見ている天気予報。雨の予報ならかさを持ち、気温が上がろうなら薄着で出かけるなど、私たちの生活には欠かせない情報です。では、天気予報はどうやって作るのでしょうか？ こども記者まなっくの2人がテレビ局でかつやくする気象予報士取材し、天気コーナーに出演しました。

(中出幸恵)

「まなっく」は、まなぶんの「まな」と、「行く・書く」に由来する愛称です

こども記者 まなっく 見ぶん録

気象予報士の仕事 テレビ局で体験



「正確に伝える取り組み分かった」

札幌市・新川小4年の藤川杏凜さんと恵庭市・若草小6年の中村柚月さんは、気象予報士になつてテレビで天気コーナーを担当するのが夢です。気象予報士は国家資格で、試験に合格して登録されると、データを基に天気予報を作ることが

できます。

2人は3月下旬に札幌市中央区の北海道文化放送（UHB）を訪れ、昼の天気コーナーを担当する気象予報士の吉井庸二さんから天気予報の作り方を聞きました。

この日は根室地方の天気注目。机の上のモニターにくもり空が映し出されました。根室に設置された天気カメラ（屋外カメラ）の映像です。「雪や雨が降り出しそうですね」と吉井さん。次に、画面がかわると

数字やグラフが現れました。じつと見つけていた藤川さんが「これは何ですか」と質問すると、吉井さんは「スーパーコンピューターが天気の予測をしています。過去の膨大な気象データを基に、気温や降水量、風の強さなどを計算して出します」と教えてくれました。

天気予報はスーパーコンピューターの予測だけでなく、気圧などの気象情報が入った天気図、気象衛星がさつえいした雲の動きなどを組み合わせて考えます。よりくわしい天気予報を作るには、気象予報士の知識や経験も大切で、「空の色や雲の形からも天気の変化を知ることが出来ます。重要なのは自分の目で今の天気を見ることです」と吉井さんが言うと、2人は真剣にメモを取りました。

吉井さんは「北海道は地域によって天気予報が全くちがう時もあり、やりがいを感じる」と言います。中村さんは「正確な情報を伝えるための取り組みが分かった」と話し、藤川さんは「気象予報士になりたい気持ちが強くなった」と意気こんでいました。

イントです」と答えます。

「みんテレ」出演 菅井さんに質問

まなっくたちは、UHBの情報番組「みんテレ」に出演する気象予報士の菅井貴子さんにも天気のことや仕事について聞きました。

「ぎり、もやのちがいは何ですか」と中村さん。「いい質問ですね」と菅井さんがほほえみます。両方とも空気中の水蒸気が細かな水になつてうかんでいる状態です。「1ヶ先が見えないのがぎりで、見えるのがもや。1ヶ先という基準がポ



スタジオ見学中にテレビでじょうかいされたまなっくの2人

この日、2人は番組で天気を伝える菅井さんを間近で見て、テレビにも出演しました。関心が高まった2人は「天気を勉強するにはどうしたらいいですか」と質問しました。「毎日、空の様子を観察しましょう」と菅井さん。「疑問に思ったことを調べていくと、知識が増えていきま

すよ」とアドバイスしました。